

Q. 子供のことで愚痴をこぼすと、よくお友達から反抗期だから仕方がないと言われます。子供の反抗期にどう向かい合えばいいのでしょうか。

反抗期

反抗期には、3歳前後の第1反抗期と13～14歳頃の第2反抗期、(その他に8～9歳頃の間反抗期があると言っている人もいます。6歳前後の就学前反抗期と言う人もいます。)に、それまでと比べ、いわゆる反抗的態度が目立ち大人が困ることが多くなります。

反抗期と言うのは、自我が芽生えてきて、自立が始まった特徴ある時期です。

自立しようとする子供の意思と大人の意思と反するので大人側で反抗と受け取るに過ぎないのです。

反抗ということは、二つの意思の対立によって現れます。人と人との間に見られるもので、二人の間の心理的距離が大きい場合にはあまり発生せず、自分に対して最も近い存在であって、強い影響を与えるものに対して反抗が現れます。反抗と服従とは深い関係があり、いままで強く影響され、服従してきた相手に対して反抗が起きるのです。

子供は赤ん坊のときからずっと母子一体感をもって成長してきます。このように全面的に母親あるいはそれに変わる人に依存する生活の中で、人間やこの社会に対する愛情や基本的信頼感を身に

つけていく、生きていく上で最も大切な時期を過ごします。

一歳までの乳児期は離れることが出来ないし、歩き出し、走り出す一歳児も目が離せません。二歳になると全面的依存から、いろんな事が出来るようになりますが、まだ圧倒的に親を頼っていますから、親のいいつけも良く聞けるようになります。手がかからなくなって、しかも自分(母親)を求めてくれる可愛い盛りです。2歳半から3歳ころに、突然「イヤダ、ボク〇〇したい」、「自分で(する)」と言い、親の手を振り切って、勝手なことを始めます。お母さんの口からは「どうしてそう逆らうの!」とか、「勝手なことをするんじゃない!」「言うことを聞きなさい」という言葉が飛び出します。

子供にしてみると、自分はお母さんとは違う人間だということに気がついた、だから自分の考えで生きていこう、自分が思った通りに生きていこうとしているのであって、お母さんに逆らうためにした訳ではありません。子供の自立が始まったのですから

喜ぶべき事なのです。子供に任せる時期がきたということです。

しかし、まだ何の経験もない子供は、興味に任せて行動すると、とんでもない間違いや、危ないことなどをするのも事実です。このときの親の態度としては、危険なときはとんでいって止めさせる必要がありますが、そうでない場合は、子供がすることに

任せるべきです。そして、教えるべきことは子供に分かるような言葉とスピードで話して聞かせ、教えてあげることが必要です。

ただし、決して理屈で説き伏せるようなことはしないことです。子供には論理性が育っていませんから理解しにくいと思います。子供のレベルまで下がって、子供が理解できる話に焼き直して教えてあ



げましょう。

これまでは母子一体感できたものが自分はお母さんの一部ではないのだ、別の人間なんだということに気が付いてそれを態度に表すようになった。それが、「イヤダ！」です。親のいう通りにしていたら見えなくなってしまう自分の存在を、「イヤダ」によって誇示するのです。子供が、「ボクは自分の生き方をする」と宣言したのですから、お母さんも子供の人格を認めてあげる時期にきたのです。いつまでも自分の分身と思っていると、自立しようとして行動していることを反抗と見てしまい、感情的になって腹が立つのです。子供の成長と同じように親も成長していかなければならないとよく言われますが、子供の自立が始まったら、自分(親)の意思とは違う行動をする子供を受け入れるだけの器の大きい自分に成長しなければならないということになるでしょう。

親のいう通りにしていれば結果が悪いはずはありません。だから安心してしまいます。また、子供にとっても、味方である親や先生の言うことを聞いてさえいれば、自分に不利になるはずがありません。このようなことを続けていくと、他の言うことを聞く習慣を身につけてしまい、悪友の言うことが拒否できなくなることにつながる場合もあります。親や先生を相手に「イヤダ」を連発することは将来自分を守るための必要な訓練と言ってもいいでしょう。

13歳前後になると、それまで小さく抗いながらも、親や教師を、とてもかなわない存在として信頼してきた状態から、親の本当の姿が見えはじめ、「なんだ、親もただの人だ」、あるいは「許すことの出来ない卑怯な人間だ」となって今までの生き方では我慢できなくなり、行動を起こすのです。全ての権威や、社会のルール等に疑いを持ち、軽蔑の対象とするのです。理想と現実のはざままで自分自身にも

腹が立ち、あるいは自信のなさを隠すために反抗するのが第二反抗期です。

しかし、こういった経過をたどるから、次第に自我が確立して、余裕を持って他者と協調できる力が養われていくのです。自分はどんな男(女)になろう、どんな大人になろうというように自分を見つめていく時だと思います。子供が見せる姿は必ず必然性があります。それを良く理解していくことが大切です。

この時期は子供に任せ、子供の範囲内で責任をとらせるようにすることではないかと思っています。自分の事は自分で最後まで解決するよう待つてあげることです。ただし、子供を信頼して任せられるよう、それまでの子育てをしっかりとする事が前提だと思います。

中間反抗期の特徴は、親からの命令や小言に対して「いまやろうと思っていたのに」とか、「お母さんだってやっているくせに」等との言葉を使うようになります。親に対する批判力が出てきた証拠です。しかし子供は、まだ体力的にも口でも絶対にはかなわないのです。この圧倒的優位な親の力を使うと反抗的態度を長引かせこじらせてしまいます。

中間反抗期の子供はまだ親を尊敬し見本としていこうとするところが大きいので、命令でなく、お願いや提案をしていく事、親が欠点を指摘されたら素直に認めて、改めていく姿勢を見せていく事が肝要です。

子供は言われて覚えることより見て覚えることのはるかに多いのです。親の態度をお手本として生き方を身につけていきます。

それから大事なことは、子供の行為に直接口を出す前に、こんな子供になって欲しいという親の願いを普段から子供に伝えておくことを忘れないことです。子供はお母さんの願いを実現するように頑張るものです。

